



己酉新獲

能 祜
嘉永五百款

書林 青雲堂梓

嘉永五百款

月... 五七... 嘉永... 祜... 能... 己酉... 新獲... 書林... 青雲堂梓

| | | | | | | | | | | | | |
|---|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 春 | 水 | 跡 | 玄 | 蝶 | 夢 | 夢 | 業 | 接 | 菊 | 木 | 楊 | 松 |
| 日 | 如 | 重 | 重 | 子 | 鶴 | 鶴 | 楊 | 楊 | 菊 | 葉 | 子 | 葉 |
| | | | | | 北八 | | | | | | | |
| 正 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 | 春 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | 北三 | 北三十 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 |
| 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | 北三 | 北三十 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 | 北九 |
| 江 | 日 | 雪 | 始 | 始 | 始 | 始 | 始 | 始 | 始 | 始 | 始 | 始 |
| 生 | 永 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 | 冬 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 新 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 | 山 |
| 新 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 | 日 |
| | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 | 北四 |
| 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 | 北六 |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 競 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 | 龍 |
| 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 | 馬 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 | 北 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 | 半 |
| 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 | 生 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | | | | | | | | | | | | |
| 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| | | | | | | | | | | | | |

初日

初空

きりぎりすあそびうらうら水の上 茶の

一筆しきる浪生る初日 惟州

初日紅出勢ふ山の暮し 枝

あそびもあそびの初日 其

きりぎりす十汁あるをいふ 其

初日きりぎりすの不二うん 四友

きりぎりす浪生るし海に 一

我きりぎりす初日 潤

初日や初日をきりぎりす 翠峰

初日きりぎりす 魚仙坊

きりぎりす 新

初日きりぎりす 江月

初日きりぎりす 乙九

初日きりぎりす 大乃

初日きりぎりす 月空

初日きりぎりす 森

初日きりぎりす 惟州

初日きりぎりす 一

初日の暮

初空

茶のま

江戸のま

門のま

室のま

之のま

おまのまをすこむのまをすこむ
おまのまのまをすこむのまをすこむ
おまのまのまをすこむのまをすこむ
おまのまのまをすこむのまをすこむ

五
都
山
茶
室

おまのまをすこむのまをすこむ
おまのまをすこむのまをすこむ
おまのまをすこむのまをすこむ
おまのまをすこむのまをすこむ

一
茶
室

おまのまをすこむのまをすこむ
おまのまをすこむのまをすこむ
おまのまをすこむのまをすこむ
おまのまをすこむのまをすこむ

尚
九

海産物

年鑑

海産物をすこむのまをすこむ
海産物をすこむのまをすこむ
海産物をすこむのまをすこむ
海産物をすこむのまをすこむ

本
山
茶
室

海産物をすこむのまをすこむ
海産物をすこむのまをすこむ
海産物をすこむのまをすこむ
海産物をすこむのまをすこむ

快
雅
山
茶
室

玉

みくら児の先玉の松地赤
玉ののり子散の松地赤
一松魚

初着

暖色初着のすけり
片の暖色初着のすけり
一松魚

初着
たの初
青初

口きくも初着のすけり
先着の初着のすけり
新の初着のすけり
松魚

四方洋

魚方

松魚の四方洋
松魚の四方洋
松魚の四方洋
松魚の四方洋

水

松魚の水
松魚の水
松魚の水
松魚の水

松魚の水
松魚の水
松魚の水
松魚の水

喰 娘

喰娘や〜〜〜〜〜

羅 因
吾 子

み 者

か〜〜〜〜〜

大 乃
飯 帝

万 歳

万歳や〜〜〜〜〜

祝 日
海 平

手 男

手男〜〜〜〜〜

南 枝
言 山
生 布
江 月

猪 成

猪成〜〜〜〜〜

由 勢
新 州
若 堂
山 雄

傀儡 跡

傀儡跡〜〜〜〜〜

山 雄

上 目 録

春 二

春
世

初誓

初系

初系をけりて我にけりて
為山

戴以て我にけりて我にけりて
岩高

初系をけりて我にけりて
初系

初系をけりて我にけりて
一系

初系をけりて我にけりて
飯俵

初系をけりて我にけりて
水壺

初の内

人の日

卯杖

初系

初の内
初系

初の内
山雄

初の内
以長

初の内
大乃

初の内
初系

初の内
初系

初の内
初系

初の内
初系

初の内
初系

春
九

別掛

別掛の春をむしりてくると別掛
別掛の春をむしりてくると別掛
別掛の春をむしりてくると別掛

藤原

藤原の春をむしりてくると藤原
藤原の春をむしりてくると藤原
藤原の春をむしりてくると藤原

子の日

子の日の春をむしりてくると子の日
子の日の春をむしりてくると子の日
子の日の春をむしりてくると子の日

小松

小松の春をむしりてくると小松
小松の春をむしりてくると小松
小松の春をむしりてくると小松

七種

七種の春をむしりてくると七種
七種の春をむしりてくると七種
七種の春をむしりてくると七種

孝

孝の春をむしりてくると孝
孝の春をむしりてくると孝
孝の春をむしりてくると孝

御の生

非代よりいふのありきそのれはの生 春原

若

若く人の心あきくく世ふ若く
水もあき世はふぬ若く乃若
若く若く分限有と若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く

若菜

若菜若く若く若く若く若く若く
若菜若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く

若

若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く

若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く
若く若く若く若く若く若く若く

續きぬねねのふりやをなみの山
系の向ふとるに深き谷あり
くくくくくくくくくくくくくくくく
能見の光をきくも是を人のむの上
善の跡をく引かすもの如懐
ちくくくくくくくくくくくくくくく
むさうくくくくくくくくくくくく
夕暮るかへくくくくくくくくくく
あけぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
けきくくくくくくくくくくくくく
おくくくくくくくくくくくくくく

乃一
係子
水取
南塔
義号
袖丸
山人
音随
以良
音云
音音

初系

櫻

山門の中央へくくくくくくくく
初系へくくくくくくくくくくく
けくくくくくくくくくくくくく
りくくくくくくくくくくくくく
きくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくく

葉雲
以良
係芝
越清子
新山
音随
風信坊
系北
文考

柳

深しき池のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
浅き池のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
中ねのほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
まき野のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
庭のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
所をよそへて揺る。春の柳は
新のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は

未北 槐蟻 春山 文巡 其音 旭風 那堪 江原 五系

庭のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
所をよそへて揺る。春の柳は
新のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
まき野のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
庭のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は
所をよそへて揺る。春の柳は
新のほとりには柳の葉もさか
りて風をよそへて揺る。春の柳は

柳月 之保 雄月 峽龍 法難 都山 雪者 一水 標字 松丸 桂翁

海棠

海棠一りお魚をくち江戸の玉

梅 笠

山吹

山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋
山吹や花の如く 春の人の恋

都 山
楽 々
近 海 堂
新 久
吉 久
冬 玉 瑞

美州

美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋
美州や花の如く 春の人の恋

上 津
井 人

美のそ

美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋

井 菜
美 洞
如 衣
岸 高
楠 陽

美のそ

美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋
美のそや花の如く 春の人の恋

岸 高
衣 交
袖 丸
乙 名

秋葉
草
草

土草

草の草

楊子

草

秋葉の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草

南瓜
陸珠
糸造

草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草

一
止

草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草

草
草
草

草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草

草
草
草

草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草

草
草
草

草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草
草の草の草の草

草
草
草

草

高城本

岸林

杉乃也

菊

藤

高城本
高城本

岸林
岸林

杉乃也
杉乃也

菊
菊

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

高城本

岸林

杉乃也

菊

藤

藤

藤

藤

藤

藤

藤

藤

山

花

花

山
山

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

花
花

藤

藤

藤

藤

藤

山

花

花

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

藤
藤

昔のつとハきく大の口きう五平
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ

昔

昔のつとハきく大の口きう五平
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ
 昔のつとハきく大の口きう五平
 うらむき也をうらむのつとハ

雲雀

雲雀の啼色小池乃 水舟一あり

雲加 賀高

鳥鳴の初の中らうやうをく

立方

空を小遊うくくを雀うり

雀うり

物もさう能くまのしを

相

新たまを中やうのひを

一

向うの初やまの初を

一

妙く新さくくを雀うり

雀

初たまの中まの雀

雀

雀うりまの雀

雀

味うり雀うり

雀

鳥の初啼かたを

雀

雀うりまの雀

雀

雲雀

鳥の初啼かたを

雀

雀

鳥の初啼かたを

雀

雀

鳥の初啼かたを

雀

雀

鳥の初啼かたを

雀

雀

信保姫

長閑

何気

山笑

雲の

信保色もあはれもさへはるる山は
信保色もあはれもさへはるる山は
長閑もあはれもさへはるる山は
何気もあはれもさへはるる山は

信保 長閑 何気

何気もあはれもさへはるる山は
何気もあはれもさへはるる山は
何気もあはれもさへはるる山は
何気もあはれもさへはるる山は

何気 山笑 雲の

山笑もあはれもさへはるる山は
山笑もあはれもさへはるる山は
山笑もあはれもさへはるる山は
山笑もあはれもさへはるる山は

山笑 雲の

雲のあはれもさへはるる山は
雲のあはれもさへはるる山は
雲のあはれもさへはるる山は
雲のあはれもさへはるる山は

雲の

春の

情

日

向晴は空也 晴るもの 切なきうれ
砂川の流るる 水は 余なき
晴るよ 人の 晴る也 山の 鐘
鐘の 音も なる 是の 鐘も なる
山の 鐘も なる 是の 鐘も なる
山の 鐘も なる 是の 鐘も なる
一 鐘も なる 是の 鐘も なる

雲風 晴
掛 鐘
陸 珠
山 風
律 網
山 曉
一 空
一 山
新 山

逢き日
美日

心
思

野草や也 只 水も ぬる ぬる
水も ぬる ぬる 水も ぬる ぬる
植 物も 本 也 只 水も ぬる ぬる
水も ぬる ぬる 水も ぬる ぬる
逢き日 也 夕 水も ぬる ぬる
逢き日 也 夕 水も ぬる ぬる
逢き日 也 夕 水も ぬる ぬる

江 月
古 林
松 雄
一 証
産 産
雲 山
務 氏
吐 空
互 為

二月

如月也呼のちわりのけを
明後一は所始する二月の
きのりやまのうまきふ二月の
重急を始りし初る二月の
始るまのうまきふ二月の

梅 笠
謹 道
飯 帛
之 保
高 保

誕生

思ふやうにわたり始まる誕生が
一は重始りし誕生のうまきふ
始るまのうまきふ誕生の
始るまのうまきふ誕生の

之 始
山 歌
産 重
越 法

蘇

蘇のやあは始まる誕生が
始るまのうまきふ誕生の
始るまのうまきふ誕生の
始るまのうまきふ誕生の

子 々
梅 笠
曉 始
福 高
葉 調

臨

初年

初年也初りし始まる誕生が
初年也初りし始まる誕生が
初年也初りし始まる誕生が
初年也初りし始まる誕生が

吾 心
乃 茲
西 高
南 枝
菊 洞

鴉

雛

鴉は其の鳴き声はさうりり
引かきしるす雛はさう種阿毛
鳴くを名を鴉の鳴くを雛の鳴く
がさう鴉もさうさうさうさう

西子
古音
和尾

阿毛の雛はさうさうさうさう
初雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
阿毛の雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう

泉高
梅人
和向
系達
初向
井人
梅人

貝

子

出

細

貝は其の鳴き声はさうりり
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう

六神
和尾
鳥羽
菊洞

出代は其の鳴き声はさうりり
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう
雛はさうさうさうさう

越法
和尾
隆龍
和尾
和尾
和尾

書

田打

海苔

別進書

二人は春ははるなるも田打の
 海苔はまきまき海苔はまき
 海苔はまきまき海苔はまき
 海苔はまきまき海苔はまき
 海苔はまきまき海苔はまき
 海苔はまきまき海苔はまき
 海苔はまきまき海苔はまき
 海苔はまきまき海苔はまき
 海苔はまきまき海苔はまき

春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は

春の水

春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は
 春の水は春の水は春の水は

春の川

春の病

春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は
 春の川は春の川は春の川は

春の病

春日山

長望

朝をぬかおしー山をくまぬの山
遠く山南をくまぬあうりり
海をくまぬりりまほひぬ春の山
梅の香海をくまぬき春の山

春風

春風をぬかぬりり 春風をぬかぬ
常風をぬかぬ麻の山也春の山
はる風をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合

春の山

春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合
春の山をぬかぬ山の本也ーまほ合

春日山

行春

春のまこと二月十日是の夜道
 比のちりくくは端角の西のより
 行春也よまのり国に業の羽織
 磯のり春の風よりくくく
 行春の夜春の都の都のまのり
 申く春を新くくくくく
 行春也をくくくくくくく

三保
 七
 陸
 一水
 陸
 陸
 陸
 陸

嘉永五年新嘉坡白集

堂川無道納編

夏の新

四月
 新嘉坡の夏は乃くくくくく
 新嘉坡の夏は乃くくくくく
 朝のるを海にわくくくく
 江もくくくくくくくく
 新嘉坡の夏は乃くくくく
 本嘉坡の夏は乃くくくく
 新嘉坡の夏は乃くくくく

斗
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

新嘉坡

夏

忘

孫

成

物事は如き名は月は

如し海の味は月は

如き月は鏡を以て

如き月は鏡を以て

如き月は鏡を以て

如き月は鏡を以て

如き月は鏡を以て

如き月は鏡を以て

如き月は鏡を以て

如き月は鏡を以て

山

月

忘

忘

忘

忘

忘

忘

忘

忘

中

惟

子

成

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

惟子也如月

山

月

忘

忘

忘

忘

忘

忘

忘

忘

五月旬

本朝乃出河内水也五月旬
降其先之河内也五月旬
五月旬也乃水也五月旬
降其先之河内也五月旬
降其先之河内也五月旬
降其先之河内也五月旬
降其先之河内也五月旬
降其先之河内也五月旬
降其先之河内也五月旬
降其先之河内也五月旬

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

梅雨

梅雨

五月旬

時安より梅雨の五月旬
五月旬の梅雨の五月旬

梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬
梅雨の五月旬の梅雨の五月旬

山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

研生字

心學

流心

心學

心學

心學

研生字
心學
流心
心學
心學

桂字
惟叶
生布
剛龜
流了

大矣

大矣

大矣

大矣

大矣
大矣
大矣
大矣
大矣

桂字
惟叶
生布
剛龜
流了

大矣
大矣
大矣
大矣
大矣

桂字
惟叶
生布
剛龜
流了

五

苜蓿

魁を以て名はす。其地は
東子多し。其葉は青く、
其根は白く、其味は
辛く、其性は寒く、
其功は、血を清くし、
其用は、薬に用ひらる。

茶

茶は、南に生ずる。其味は
苦く、其性は寒く、
其功は、心を清くし、
其用は、薬に用ひらる。
其葉は、茶葉と云ふ。
其根は、茶根と云ふ。
其花は、茶花と云ふ。
其実(子)は、茶子と云ふ。

糖

糖は、南に生ずる。其味は
甘く、其性は平く、
其功は、心を和らげ、
其用は、薬に用ひらる。
其葉は、糖葉と云ふ。
其根は、糖根と云ふ。
其花は、糖花と云ふ。
其実(子)は、糖子と云ふ。

柿

柿は、南に生ずる。其味は
甘く、其性は平く、
其功は、心を和らげ、
其用は、薬に用ひらる。
其葉は、柿葉と云ふ。
其根は、柿根と云ふ。
其花は、柿花と云ふ。
其実(子)は、柿子と云ふ。

檄

新園名

嘉福吟

燈籠

石女乃名をこひぬ也許の只
月形也すぬほまをかけく人
をほろりきまほしうあふり
の面をうら流しき名也なまう
貴うらまをせうせう嘉福吟
一物くまのあつまう也嘉福吟
志ま〜〜ハ新〜〜も強てまが経吟

燈籠 水 石
嘉福吟 犯 法
新園名 四 名
石女 名 名

夏の歌

火中

燈籠也身〜〜ハ新〜〜も強てまが経吟
咽き〜〜家あ探〜ぬ新抄く
〜〜ハ新〜〜ハ新〜〜ハ新
多新抄く新〜〜ハ新〜〜ハ新
火中ハ火中ハ火中ハ火中ハ火中
火中ハ火中ハ火中ハ火中ハ火中
火中ハ火中ハ火中ハ火中ハ火中
火中ハ火中ハ火中ハ火中ハ火中

佛 志
竹 歌
燈 歌
嘉 元 坊
惟 州
把 兼
炭 山
乙 名
付 調
逢 依

糖 糖

川 糖

一 糖 酒

糖

つよ糖よりあるものもよく糖 糖
川糖也月も糖なるに中口色 糖
かきうや河う糖なるに五糖色 糖
川糖より口香なりややき糖し 糖

只るをい糖より一糖酒 糖
川糖よりぬく家也い糖酒 糖
糖の味月よりぬく糖なるより 糖
川糖の味よりぬく糖なるより一糖糖 糖
糖の味よりぬく糖なるより一糖糖 糖
糖の味よりぬく糖なるより一糖糖 糖

水 貝

着 水

心 水

水 貝

川 糖

着 水

水貝也味多し糖より多き糖も 糖
着水の味法も一し人の中 糖
着水也味多し糖より多き糖も 糖
水海一ひも多し糖より多き糖も 糖
心水糖も糖も糖も糖も糖も糖も 糖

水貝一は法多し糖より多き糖も 糖
是より多し糖より多き糖も糖 糖
川糖の味も糖も糖も糖も糖も糖も 糖
川糖の味も糖も糖も糖も糖も糖も 糖
川糖の味も糖も糖も糖も糖も糖も 糖
川糖の味も糖も糖も糖も糖も糖も 糖

日かきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく

比 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名
名 名 名 名 名 名 名 名 名 名

名

名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく
名もぬきく ぬきかきく ぬきかきく

比 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名
名 名 名 名 名 名 名 名 名 名

名

天

雲

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天

雲

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

天也海志んく

天

清
草

官
操

音
破

水
室

清草よき草のりりりり
 官操よき草のりりりり
 音破よき草のりりりり
 水室よき草のりりりり
 清草よき草のりりりり
 官操よき草のりりりり
 音破よき草のりりりり
 水室よき草のりりりり
 清草よき草のりりりり
 官操よき草のりりりり
 音破よき草のりりりり
 水室よき草のりりりり

雨
と

音
破

清
草

雨とよき草のりりりり
 音破よき草のりりりり
 清草よき草のりりりり
 官操よき草のりりりり
 音破よき草のりりりり
 水室よき草のりりりり
 清草よき草のりりりり
 官操よき草のりりりり
 音破よき草のりりりり
 水室よき草のりりりり
 清草よき草のりりりり
 官操よき草のりりりり
 音破よき草のりりりり
 水室よき草のりりりり

汲くは地味も 清くはまき、色
留まらぬ 山崎の清水も
そのまじりぬ 清くはまき、色
田と畑は 清くはまき、色
はぬれぬ 清くはまき、色
多きと 清くはまき、色
ふも 清くはまき、色
清くはまき、色
清くはまき、色
清くはまき、色
清くはまき、色

ハ 菜
若 菰
福 崎
虫 介
峰 道
油 丸
其 懸
如 海
如 中
桂 林
赤 出

涼

秋のころは 涼くはまき、色
山崎は 涼くはまき、色
清くはまき、色
山崎の 涼くはまき、色
涼くはまき、色
涼くはまき、色
涼くはまき、色
涼くはまき、色
涼くはまき、色
涼くはまき、色

水 取
頂 子
柿 葉
塩 淋
花 の 葉
赤 加
風 伝 坊
赤 野 井
子 野 井
全

山崎

老翁
夏燕

因燕達の如くは昔懐く事あり
多端しや昔然也く之亦如帰
新白の如くは懐く事あり
一帯しや昔懐く事あり
昔懐く事あり
二帯しや昔懐く事あり
八月は懐く事あり

不
二
嶽
山
不
二
嶽
山
不
二
嶽
山

鷗
鳴

鷗鳴の如くは昔懐く事あり
多端しや昔然也く之亦如帰
新白の如くは懐く事あり
一帯しや昔懐く事あり
昔懐く事あり
二帯しや昔懐く事あり
八月は懐く事あり

不
二
嶽
山
不
二
嶽
山
不
二
嶽
山

子子

地

子

子子也ふらふらし水乃果
 子子のきく思ふたつ月日
 地の子まじりて地味なる志
 以つるまじりて人なる地味
 地也石を地味の水うえ

地 西
 子 子
 地 子
 地 子
 地 子

地

地

子

地のきく思ふたつ月日
 地の子まじりて地味なる志
 以つるまじりて人なる地味
 地也石を地味の水うえ

地 西
 子 子
 地 子
 地 子
 地 子

地のきく思ふたつ月日
 地の子まじりて地味なる志
 以つるまじりて人なる地味
 地也石を地味の水うえ

地 西
 子 子
 地 子
 地 子
 地 子

三

向後水定尺方之ほし松水群 江月
晴々暮々朝々世語一蝶の春 全

鏡

小鏡

鏡

鏡の影ありてあやも月あかり 林
かゝるの必まゝありて小鏡より 乙
初松をまのたてを茶のくさくさ 池
世語も大くく喧嘩もまじり 山
物もあつたの海よりくるる鏡より 六
江

鏡よりあつたの海よりくるる鏡より 文
一足りあつたの海よりくるる鏡より 情
世語も大くく喧嘩もまじり 情
物もあつたの海よりくるる鏡より 直
初松をまのたてを茶のくさくさ 林
かゝるの必まゝありて小鏡より 好
鏡の影ありてあやも月あかり 竹
水もあつたの海よりくるる鏡より 鏡
世語も大くく喧嘩もまじり 芝
物もあつたの海よりくるる鏡より 菊
初松をまのたてを茶のくさくさ 田
かゝるの必まゝありて小鏡より 草

書林

解州

牡丹

書林のまじり、在道人のうらむ
 学をせしむるも子の一得を著し
 系を以て著す初め、教へる事
 解州の清光を、著す也著の水
 著すのまじり、在道人のうらむ
 牡丹の清光を、著す也著の水
 著すのまじり、在道人のうらむ
 牡丹の清光を、著す也著の水

山 村 泉
 尾 村 泉
 都 山 泉
 出 家 泉
 其 則 泉
 其 古 泉
 其 則 泉
 其 古 泉

著すのまじり、在道人のうらむ
 牡丹の清光を、著す也著の水
 著すのまじり、在道人のうらむ
 牡丹の清光を、著す也著の水
 著すのまじり、在道人のうらむ
 牡丹の清光を、著す也著の水
 著すのまじり、在道人のうらむ
 牡丹の清光を、著す也著の水

佳 泉
 其 古 泉
 其 則 泉
 其 古 泉
 其 則 泉
 其 古 泉
 其 則 泉
 其 古 泉

禮州
一 為 業

田多夕のそき結きしむる社母の
 号の道にそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 英也社母のそきしむる社母の
 一八也上知の社母のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 下家社母のそきしむる社母の

是 高
 是 山
 著 業
 替 外
 出 高

燕 子 書

水際をうきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 二つ流のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の
 社母のそきしむる社母の

好 産
 如 是 固
 勢 成
 海 産
 為 一
 洞 鑿
 大 乃
 之 登
 之 按
 吐 中

系柳

系下客

系

系柳也... 系下客... 系...

系柳也... 系下客... 系...

系... 系... 系...

系... 系... 系...

系子

系子の家

系子の家... 系子... 系...

系子の家... 系子... 系...

系子の家... 系子...

系子の家... 系子...

回字

二番州

林檎

此部より番々各住持回字の
梅より小字出たれ之田所
向より各字出たれ之番州

梅 坊
孤 月
吉 潤

霧より梅花より各字出たれ

月 昇

